

愛媛県の地震

2021年（令和3年）1月

目次

1. 愛媛県周辺の震央分布図	1
2. 地震概況（1月）	1
3. 愛媛県で震度1以上を観測した地震（1月）	2
4. 愛媛県で震度1以上を観測した地震 の震度分布図（1月）	2
5. 地震一口メモ 長期評価による地震発生確率値の更新について	3

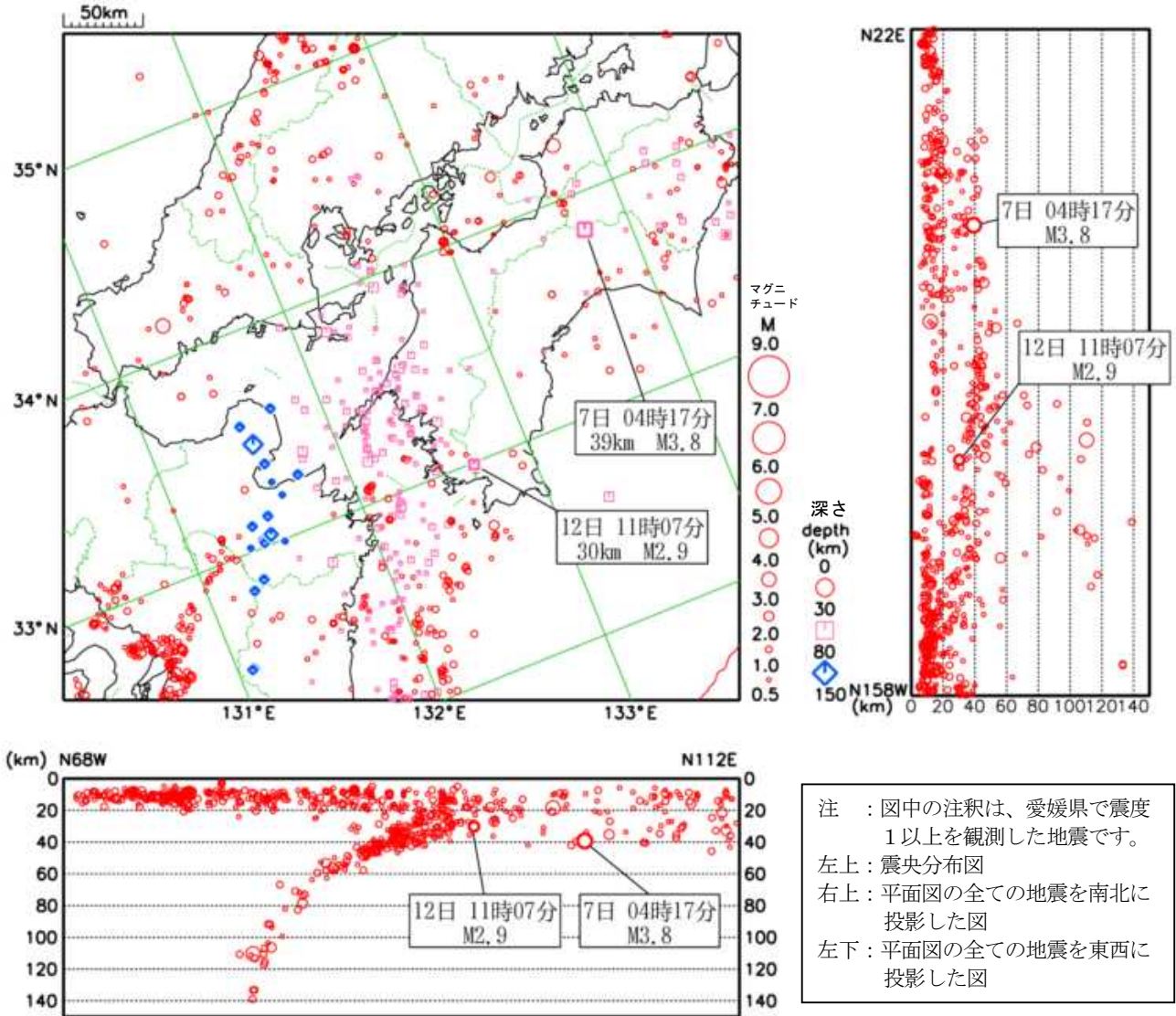
本資料に記載した震源要素（緯度、経度、深さ、マグニチュード）は、暫定値です。これらは、後日、再調査のうえ修正することがあります。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。

また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

松山地方気象台

1. 愛媛県周辺の震央分布図 [2021年1月1日～1月31日]



震央分布図は地震が発生した場所を地図上でプロットしたものです。地震は地下で発生しますのでシンボルマークの形を深さに応じて変えています。○より◇の方が深い場所で発生した地震です。また、シンボルマークの大きさで地震の規模（マグニチュード）を表現しています。

2. 地震概況（1月）

今期間に、上図の震央分布図内の領域で決定した地震のうち M2.0 以上の地震の回数は 42 回（先月は 49 回）、愛媛県内で震度 1 以上を観測した地震は 2 回（先月は 3 回）でした。

7 日 04 時 17 分 高知県中部の地震（深さ 39km、M3.8）により、香川県丸亀市・観音寺市・綾川町、高知県安芸市・馬路村・土佐町で震度 2 を観測したほか、中国・四国地方で震度 1 を観測しました。

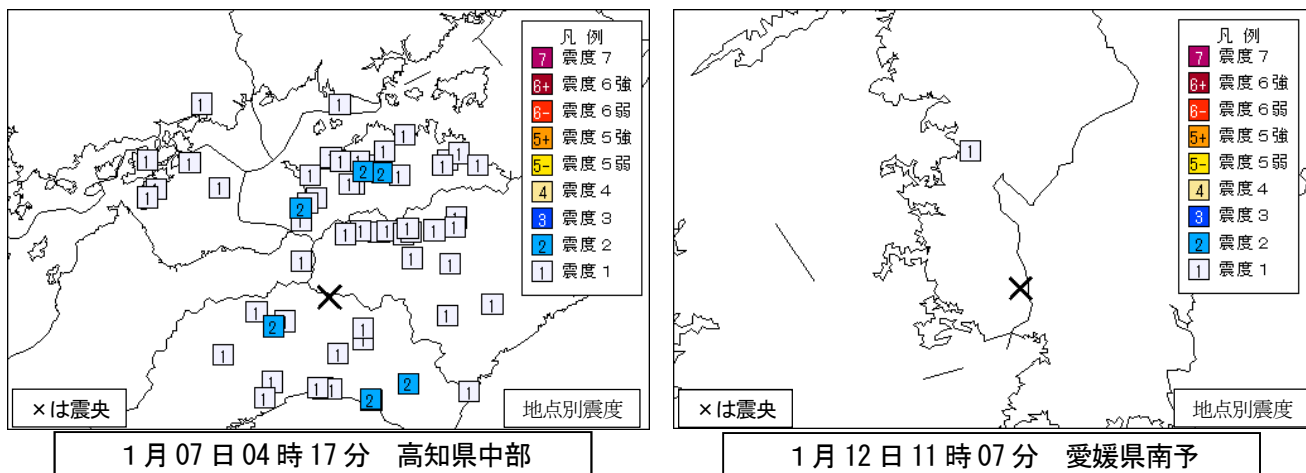
12 日 11 時 07 分 愛媛県南予の地震（深さ 30km、M2.9）により、愛媛県宇和島市で震度 1 を観測しました。

3. 愛媛県で震度1以上を観測した地震（1月）

震源時（日時分）	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード	最大震度
愛媛県内各地の震度						
2021年01月07日04時17分	高知県中部	33°49.6' N	133°45.0' E	39km	M3.8	最大震度2
----- 地点震度 -----						
愛媛県	震度 1：今治市吉海町*、今治市宮窪町*、今治市上浦町*、四国中央市新宮町* 上島町魚島*、上島町弓削*					
----- 地点震度 -----						
2021年01月12日11時07分	愛媛県南予	32°59.5' N	132°40.4' E	30km	M2.9	最大震度1
----- 地点震度 -----						
愛媛県	震度 1：宇和島市丸穂*					

注：*印は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

4. 愛媛県で震度1以上を観測した地震の震度分布図（1月）



5. 地震一口メモ

長期評価による地震発生確率値の更新について

政府の地震調査研究推進本部は主要な活断層や海溝型地震の活動間隔、次の地震の発生可能性（場所、規模及び発生確率）等を評価し、随時公表しています。令和3年1月1日を基準日として再計算が行われ公表されましたので、以下のとおり愛媛県に關係の深い領域を抜粋して紹介します。なお、中央構造線断層帯の区間については、「愛媛県の地震2020年（令和2年）9月」の地震一口メモに概略位置図を掲載しています。

中央構造線断層帯（愛媛県内区間）の長期評価の概要（算定基準日 令和3年（2021年）1月1日）

区間	長期評価で予想した地震規模（マグニチュード）	我が国の主な活断層における相対的評価（ランク） ^{（注1）}	地震発生確率（30年以内）	地震後経過率	平均活動間隔
					最新活動時期
讃岐山脈 南縁西部	8.0程度 もしくはそれ以上	A	ほぼ0%～0.4%	0.2-0.5	約1000年-1500年 16世紀以後-17世紀以前
石鎚山脈 北縁	7.3程度	Z	0.01%以下	0.4以下	約1500年-1800年 15世紀以後
石鎚山脈 北縁西部	7.5程度	S*	ほぼ0%～12%	0.2-0.9	約700年-1300年 15世紀以後-18世紀以前
伊予灘	8.0程度 もしくはそれ以上	Z	ほぼ0%	0.04-0.1	約2900年-3300年 17世紀以後-19世紀以前

南海トラフ地震の長期評価の概要（算定基準日 令和3年（2021年）1月1日）

領域	長期評価で予想した地震規模（マグニチュード）	我が国の海溝型地震の相対的評価（ランク） ^{（注1）}	地震発生確率（30年以内）	地震後経過率	平均活動間隔
					最新活動時期
南海トラフ	8～9クラス	Ⅲ*	70～80%	0.85	次回までの標準的な値 ^{（注2）} 88.2年 75.0年前

注1 活断層における今後30年以内の地震発生確率が3%以上を「Sランク」、0.1～3%未満を「Aランク」、0.1%未満を「Zランク」、不明（すぐに地震が起きることが否定できない）を「Xランク」と表記している。海溝型地震における今後30年以内の地震発生確率が26%以上を「Ⅲランク」、3%～26%未満を「Ⅱランク」、3%未満を「Ⅰランク」と表記している。地震後経過率が0.7以上については、ランクに*を付記している。

注2 南海トラフ地震については過去に起きた大地震の震源域の広がりにも多様性があり、これらの複雑な発生過程を説明するモデルは確立されていない。次の大地震が発生するまでの期間が、前の地震の規模に比例するという時間予測モデルが成立していると仮定した場合、昭和東南海・南海地震の規模は、安政東海・南海地震より小さいので、室津港（高知県）の隆起量をもとに次の地震までの発生間隔を求めると、88.2年となる。

参考：地震調査研究推進本部（令和3年1月13日公表）

https://www.jishin.go.jp/evaluation/long_term_evaluation/chousa_21jan_kakuritsu_index/